

RUBeC 演習を終えて

小 梶 寛 太

Kanta KOKAJI

物質化学専攻修士課程 1年

1. はじめに

私は2016年8月13日から29日にかけてカリフォルニア州パークレーで行われたRUBeC演習に参加しました。この演習では、自身の研究論文を英語で提出、または発表ができるようになることを目的としたテクニカルライティングと英語プレゼンテーションについて学びました。さらに、アメリカの企業と大学へ訪問することで、現地の学生の生活や企業の雰囲気などについて学ぶことができました。

2. 目的

今回私がこのRUBeC演習に参加した目的は、これからの英語学習へのモチベーションに繋げるためです。その理由として、私は将来的には英語を用いて仕事をしたいと考えているからです。しかし、私は中学生のころから英語が苦手でした。なので、RUBeC演習に参加して、現地の方と直接触れ合うことで英語学習へのモチベーションを向上させようと考えました。

3. 授業

3.1 テクニカルライティング

授業は午前中にテクニカルライティングの授業があり、休憩をはさんで、午後からプレゼンテーションの授業が行われました。

テクニカルライティングの授業では主に自身の研究に関する英語の要旨の校正を目的としており、そのために英文法などを学びました。内容としては、1週目は冠詞や前置詞など基本的な文法の使い方を学び、2週目に学んだことを活かし、現地の先生と共に自身の英語の要旨の校正を行いました。現地の先生は理系ではないので、校正の時には自身の研究

内容を簡単に言い換えたりしつつ英語で伝えようと頑張りましたが、発音であったり、文の構成などうまくいかず、龍谷大学の教授に補助してもらいながらなんとか完成させることができました。

3.2 英語プレゼンテーション

英語プレゼンテーションの授業では授業最終日に予定されていたプレゼンテーションに向けて、英語の発音やチャンクリーディングと呼ばれる文の読み方、英語のスライドの作り方や発表の仕方などを学びました。英語の発音ではLとRの発音の仕方を学びましたが、実際にはなかなか学んだ通りに発音することができず、苦勞しました。また、この授業では発表の仕方について、ゆっくり聴衆に伝わるように話すことやジェスチャーを使って大きく表現するよう指摘されました。これらは英語での発表だけでなく、今後の報告会や学会発表でも活かしていくので、英語だけでなく日本語でのプレゼンテーションの為にもなったので、とても充実した授業となりました。

4. 企業訪問

一週目の水曜日にカリフォルニア州サンタ・ローザにあるThermal Technology社を訪問しました。この企業は製品の製造から設置までを一括して行っており、セラミックや金属などの加工も行っている企業です。今回は放電プラズマ焼結(SPS)や新しい炉について紹介していただけました。企業の雰囲気としては企業の方たちの関係も良く、本社内では音楽がかかっていたり、日本の企業に比べて堅い感じがせず、仕事に取り組みやすそうな印象でした。もうすぐ就活を控えているこの時期に海外の企業を訪問できたことは私自身にとって貴重な経験になりました。

5. 大学訪問

二週目の水曜日に龍谷大学の協定校であるカリフォルニア大学デービス校を訪問しました。敷地内は

デービスの学生に案内してもらい、教授の方に学生生活や研究活動について説明していただきました。デービス校は敷地が 5300 acre と非常に広く、学生は基本的に自転車やスケートボード、キックボードなどを使って移動していました。また、敷地内には放牧やブドウ園などもあり、広い芝生のエリアにはハンモックが設置されており、学生がハンモックに横になりながら読書をしていました。そのほかにも多くの図書館があったり、夜の 1 時まで空いているジムが設備されていたりと、勉強もしやすいうえに生活環境も良い印象でした。次に、Geotechnical Modeling Facility という学内の研究施設を見学させていただきました。ここでは主に地震についての研究を行っており、全長 18 メートルもある遠心分離機を用いて地震の状況を再現させることで研究を行っていました。また、実際の震源地で使用する応力計は一本 100 万円するなど、今回デービス校を訪問して感じたことは規模の大きさです。また、私の学んでいる分野とは別の分野を学べた良い機会となり、私も今後海外でこのような大きい研究に携わってみたいと思えました。

6. ホームステイ

RUBeC 演習での二週間はホームステイを行いました。これまで私は海外には何度か訪れたことはありますが、ホームステイは初めてで、楽しみにしていました。しかし、実際にホームステイをしてみると、英語があまり聞き取れず、食事の時間であったり、明日の予定を決めるだけで非常に苦労しました。そこから何日かたってくるとだんだん耳も慣れてきて、ホームステイファミリーの方がわかりやすく話してくれたというのがありますが、内容も理解できるようになっていき、1 週間くらいたったころ



図 1 集合写真

にはホームステイファミリーと英語の単語を使ったゲームをして楽しめるまでになりました。夕食の時にはカリフォルニアの文化や、野球場での応援歌などを教えていただいたり、逆に私たちのことを英語でホームステイファミリーに教えたりと非常に有意義なホームステイ生活でした。この生活で英語を話すことの楽しさに気づくことができたのは良かったのですが、英語を聞き取って話していく中で私が普段いかに人の話を聞かず、考えながら話をしていなかったかということにも気づかされました。

7. おわりに

今回、RUBeC 演習に参加することで、現在の自分の英語力がいかに足りていないかということを確認することができ、それと同時にもっと英語力を上げていくことで将来的には海外の方と不自由なく話すことができるようになりたいと強く感じることができました。これから就活が控えていますが、今回の経験を活かして、どんどん挑戦していきたいと感じています。